

第10号

奈良
国立博物館
だより

平成6年 7・8・9月



国宝 地獄絵 鎌倉時代 当館蔵
親と子のギャラリー「地獄絵」より

親と子のギャラリー「地獄絵」

7月28日(木)～8月21日(日)

新館南陳列室

特集展示「縁起絵・絵伝」

6月28日(火)～7月24日(日)

新館南陳列室

特集展示「華鬘」

7月28日(木)～8月21日(日)

新館北陳列室

平常展「仏教美術の名品」

7月26日(火)～10月2日(日)

本館

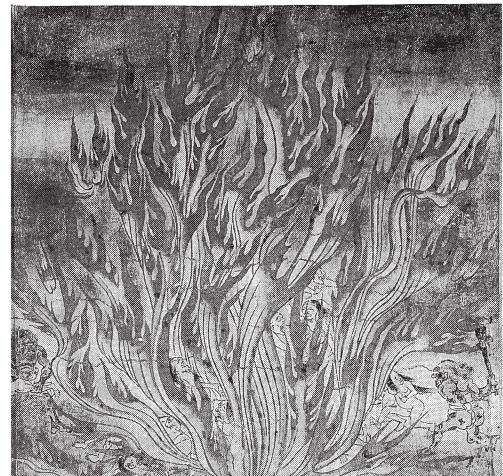
6月28日(火)～8月21日(日)

新館

親と子のギャラリー「地獄絵」

7月28日(火)～8月21日(日) 新館南陳列室

わが国では早くから地獄の絵が描かれてきた。仏教の考え方では、人は生きている間の行いのよい悪いにしたがって、死んだあと六種類の世界のどれかに生まれ変わる。その六つの世界とは、まず天人の住む「天上界」(天道)、次に「人間界」(人道)、戦いに明け暮れる魔神の阿修羅が住む「阿修羅道」、そして人間以外の動物の「畜生道」、いつも腹をすかせて生きねばならない「餓鬼道」、最後に「地獄」である。天人でさえおとろえて死んでいくように、これらの六つの世界(六道)は、どれも苦しみのたえないところである。中でも地獄は、鬼がたくさんいて、そこへ行ったものをあらゆる方法で痛めつけ、永遠に苦しめつづけるという、もっとも恐ろしい所である。生き物は、六道の間を転々と生まれ変わりながら、いつまでも苦しみから逃れられないと考えられている。ここでは、わが国で浄土経の展開とともに多様に描かれた地獄絵を、①「地獄とは何か」、②「地獄におちるまで」、③「地獄の有り様」、④「地獄を見物した人たち」、⑤「地獄から救われた人たち」の小テーマにわけ、優品によってわかりやすく展示する。



◎地獄草子 部分 (東京国立博物館)

特集展示「縁起絵・絵伝」 6月28日(火)～7月24日(日) 新館南陳列室

一般に縁起絵や絵伝といわれる絵画は、仏教の教えそのものや寺社の草創・沿革、あるいは仏教史上の偉人などに関する説話を絵に表現して幅広い階層にわかりやすく伝えるもので、わが国では早くから成立している。いわゆるテキスト(縁起や僧伝などの文章)にしたがった絵画であり、その内容によって主人公を異にした様々な表現形態をとるが、時にはこれらが重なりあいながら展開してきた。この特集展示では、こうした縁起絵・絵伝のおもしろさの一端を紹介する。

特集展示「華鬘」

7月28日(火)～8月21日(日) 新館北陳列室

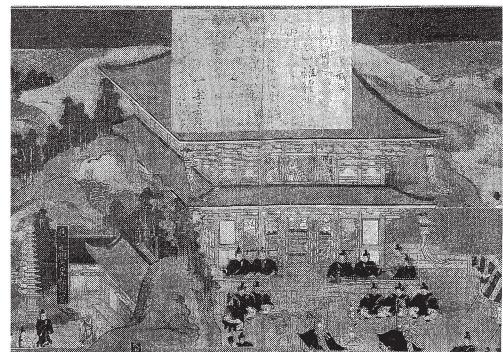
仏教では、仏を安置するお堂を厳かに飾るために、様々な道具を用いる。これを「莊嚴具」と呼ぶが、華鬘もその莊嚴具の一つである。華鬘は、文字通り花を連ねた鬘で、本来はレイのような生花の花輪であったが、やがて恒久性のある材でも作られるようになった。わが国では、皮、金属、木などで作った遺品があるが、いずれも中央に総角(結び紐)を表すのは、花を紐で連ねた本来の形が残ったものである。ここでは、平安時代から鎌倉時代にいたる典型的な作品を選んで展示する。

平常展「仏教美術の名品」

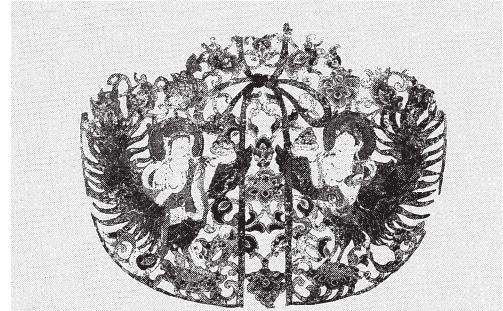
7月26日(火)～10月2日(日) 本館

6月28日(火)～8月21日(日) 新館

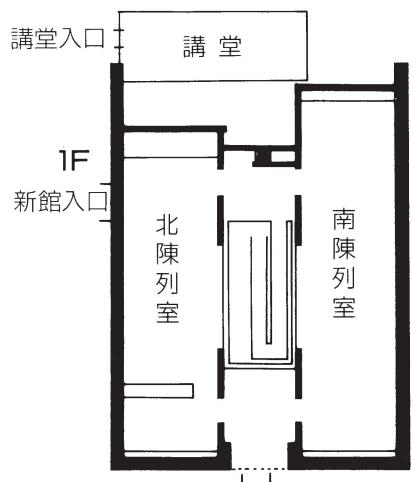
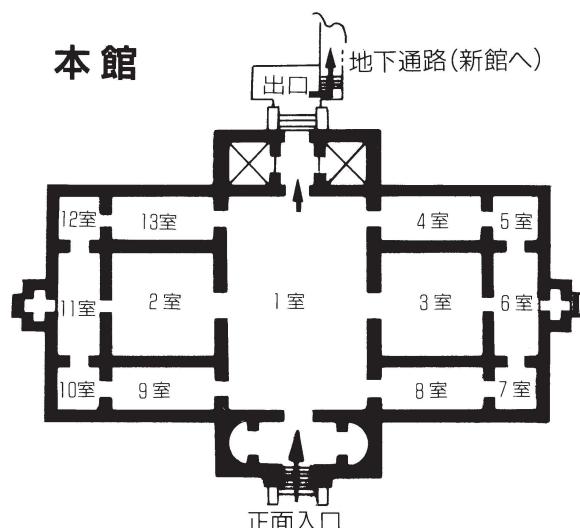
当館で収蔵・保管する館蔵品・寄託品の中から、国宝・重要文化財を含む多数の仏教関係の優品を展示し、仏教が伝來した飛鳥時代から連綿と続く多彩な美術を紹介する。本館は、各種の仏像の時代別展示と、寺院出土の遺物や瓦などを展示。新館は、仏像・仏画を大乗仏教、密教など種類主題別に展示するほか、経典や仏教関係の文書・書跡、仏堂の装飾や、仏の供養に用いるための様々な仏具を展示する。



◎行基菩薩絵伝 部分 (家原寺)

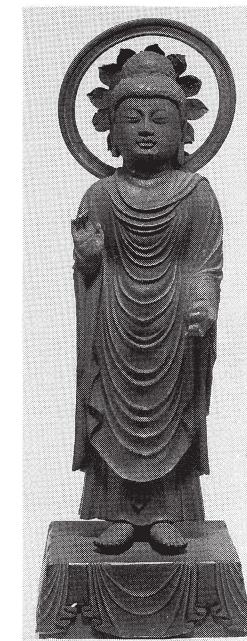
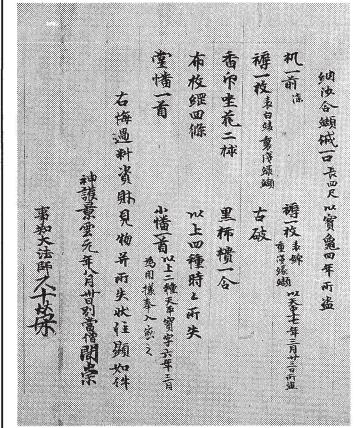


◎牛皮華鬘 (当館)



(ミュージアムショップは1階東側、ハイビジョンギャラリーは入口西側にあります)

主な展示品

本館		新館			七 月
彫刻	考古	彫刻	絵画	書跡	
7月4日(月)～7月25日(月) 展示替のため休館					
7月26日(火)～10月2日(日) 1・2・9～13室	7月26日(火)～10月2日(日)	7月1日(金)～8月21日(日) (7月25日(月)～7月27日(水)は、展示替のため休館となります)	6月28日(火)～7月24日(日) 南・北陳列室	6月28日(火)～7月24日(日) 北陳列室	5月28日(土)～7月24日(日) 北陳列室
<p>【飛鳥時代】 ◎銅造誕生釈迦仏像(正眼寺)、◎銅造弥勒菩薩半跏像(神野寺)、◎銅造觀音菩薩立像(法起寺)</p> <p>【白鳳時代】 ◎木造菩薩立像(金龍寺)、◎銅造誕生釈迦仏像(悟真寺)、◎銅板法華説相図(長谷寺)</p> <p>【奈良時代】 ◎乾漆十大弟子立像のうち舍利弗及び目犍連像(興福寺)、◎乾漆八部衆立像のうち緊那羅像(興福寺)、◎銅造藥師如來坐像(当館)、◎乾漆金剛力士立像(当館)、◎木心乾漆義淵僧正坐像(岡寺)、◎伎樂面(東大寺)</p>			<p>【如来】 ◎銅造誕生釈迦仏像及び灌仏盤(東大寺)、木造出山釈迦如來立像(当館)、◎木造釈迦如來立像(当館)、銅造釈迦如來立像(光明寺)、◎銅造藥師如來立像(般若寺)【写真】、木造大日如來坐像(元興寺町)、◎木造阿弥陀如來坐像(念仏寺)【北】、◎木造阿弥陀如來坐像(安樂寿院)、◎木造阿弥陀如來立像(称名寺)【北】、木造阿弥陀三尊像(峰定寺)、◎銅造阿弥陀三尊像(東京国立博物館)、◎木造阿弥陀如來坐像、【菩薩】◎木造弥勒菩薩立像(藥師寺)、◎木造准胝觀音立像(常盤山文庫)、◎木造聖觀音立像(本山寺)、◎木造聖觀音立像、◎木造龍猛菩薩立像(金剛峯寺)、◎木造明星菩薩立像(弘仁寺)、【明王】銅造不動明王坐像(当館)、木造愛染明王坐像(当館)、銅造軍荼利明王立像(園城寺)、【天】木造十二神將立像(当館)、木造毘沙門天立像(当館)、◎木造增長天立像(称名寺)、◎木造增長天立像(法明寺)、◎木造大黒天立像(興福寺)、木造大黒天立像(西大寺)、◎木造大將軍神像(大將軍八神社)</p>		
 <p>【平安時代】 ◎木心乾漆阿闍如來坐像(西大寺)、◎木造十一面觀音立像(地福寺)、◎木造藥師如來立像(元興寺)、◎木造如意輪觀音坐像(当館)【写真】、◎木造千手觀音立像(園城寺)、◎木造十一面觀音立像(勝林寺)、◎木造藥師如來坐像(当館)、◎木造觀音菩薩立像(觀心寺)、◎木造十一面觀音立像(当館)、◎木造十一面觀音立像(海住山寺)、◎木造阿彌陀如來坐像(當麻寺)、◎木造不動明王坐像(園城寺)、◎木造金剛力士像(財寶寺)、◎木造十二神將立像(東大寺)、◎木造板彫十二神將像(興福寺)、◎木造菩薩立像、◎銅造藏王權現像(大峯山寺)、◎舞樂面(手向山神社)</p> <p>【鎌倉時代】 ◎木造法相六祖像のうち伝行賀像(興福寺)、◎木造增長天・多聞天立像(当館)、◎木造釈迦如來坐像(東大寺)、◎木造広目天立像(興福寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)、◎木造地藏菩薩立像(春覺寺)、◎木造千手觀音立像(妙法院)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造馬頭觀音立像(淨瑠璃寺)、木造如意輪觀音坐像(当館)、◎行道面(淨土寺)ほか</p>			 <p>特集展示「縁起絵・絵伝」 ◎東大寺縁起(東大寺)、◎當麻寺縁起絵巻(當麻寺)、◎當麻曼荼羅縁起(當麻寺)、聖德太子絵伝(大藏寺)、◎行基菩薩絵伝(家原寺) その他の陳列品 ◎釈迦三尊像(頬久寺)、釈迦三尊十六羅漢像(東大寺)、◎阿彌陀聖衆來迎図(松尾寺)、◎阿彌陀八大菩薩像(松尾寺)、◎五百羅漢図(大徳寺)、◎當麻曼荼羅(長谷寺)</p>		
 <p>【平安時代】 ◎木心乾漆阿闍如來坐像(西大寺)、◎木造十一面觀音立像(地福寺)、◎木造藥師如來立像(元興寺)、◎木造如意輪觀音坐像(当館)【写真】、◎木造千手觀音立像(園城寺)、◎木造十一面觀音立像(勝林寺)、◎木造藥師如來坐像(当館)、◎木造觀音菩薩立像(觀心寺)、◎木造十一面觀音立像(当館)、◎木造十一面觀音立像(海住山寺)、◎木造阿彌陀如來坐像(當麻寺)、◎木造不動明王坐像(園城寺)、◎木造金剛力士像(財寶寺)、◎木造十二神將立像(東大寺)、◎木造板彫十二神將像(興福寺)、◎木造菩薩立像、◎銅造藏王權現像(大峯山寺)、◎舞樂面(手向山神社)</p> <p>【鎌倉時代】 ◎木造法相六祖像のうち伝行賀像(興福寺)、◎木造增長天・多聞天立像(当館)、◎木造釈迦如來坐像(東大寺)、◎木造広目天立像(興福寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)、◎木造地藏菩薩立像(春覺寺)、◎木造千手觀音立像(妙法院)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造馬頭觀音立像(淨瑠璃寺)、木造如意輪觀音坐像(当館)、◎行道面(淨土寺)ほか</p>			 <p>銅漆金鏡城口長尺以實龜年而盡 机前酒 禪枝春白綠 禪枝 右海過料資財見物 以上四種時上所失 本放經四條 堂情首 香印坐花二株 黑拂橫一合 小拂首 以上四種時上所失 為用拂事之空之 神護靈雲元年自昔刻當關崇 事和大法師不外 機前酒 禪枝春白綠 禪枝 右海過料資財見物 以上四種時上所失 本放經四條 堂情首 香印坐花二株 黑拂橫一合 小拂首 以上四種時上所失 為用拂事之空之 神護靈雲元年自昔刻當關崇</p>		
<p>7月25日(月)～7月27日(水) 展示替のため休館</p>			<p>7月25日(月)～7月27日(水) 展示替のため休館</p>		
<p>7月28日(木)～8月21日(日) 南陳列室</p>			<p>7月28日(木)～8月21日(日) 北陳列室</p>		
<p>親と子のギャラリー「地獄絵」 ◎十界図(奥院)、地蔵菩薩像(東京国立博物館)、◎十王図(陸信忠筆)(当館)、◎閻魔王図(長泉寺)、◎地蔵十王像(能満院)、◎六道絵のうち地獄図(等活・黒蠅・衆合・阿鼻)(聖衆來迎寺)、◎地獄草紙(東京国立博物館)、◎北野天神縁起(津田天満神社)、春日權現記・卷六(春日大社)、◎星光寺縁起・下巻(東京国立博物館)、◎六道絵のうち念仏利益図(譬喻経・優婆塞戒経)(聖衆來迎寺)、◎融通念仏縁起・下巻(清涼寺)、◎矢田地蔵縁起(金剛山寺)、◎矢田地蔵縁起・下巻(矢田寺)、矢田地蔵縁起(法融寺)</p>			<p>華手経(五月一日経)(当館)、◎増一阿含経(善光朱印経)(藥師寺)、◎大般若経(魚養経)(藥師寺)、◎紺紙金銀交書大般涅槃経(中尊寺経)(金剛峯寺)、◎紺紙金字大威德陀羅尼経(能満院)、◎六道絵のうち地獄図(等活・黒蠅・衆合・阿鼻)(聖衆來迎寺)、◎地獄草紙(東京国立博物館)、◎北野天神縁起(津田天満神社)、春日權現記・卷六(春日大社)、◎星光寺縁起・下巻(東京国立博物館)、◎六道絵のうち念仏利益図(譬喻経・優婆塞戒経)(聖衆來迎寺)、◎融通念仏縁起・下巻(清涼寺)、◎矢田地蔵縁起(金剛山寺)、◎矢田地蔵縁起・下巻(矢田寺)、矢田地蔵縁起(法融寺)</p>		
<p>8月22日(月)～10月7日(金) 施設改修工事のため休館</p>			<p>8月22日(月)～10月7日(金) 施設改修工事のため休館</p>		

《いま奈良博は》

奈良国立博物館の課題について

館長 山本 信吉

1、開館百年記念事業

奈良国立博物館は明治28年4月に開館して、明年平成7年4月に開館百年を迎えます。これを記念して、目下当館では、明年4月から5月にかけて特別記念展として“日本仏教美術名宝展”（仮称）を計画中です。この展覧会は明治時代以来、当館に出陳された名宝を中心に我が国仏教美術の代表的文化財をあつめ、それに奈良の地から海外に流出した名品の里帰りを加えて実現する予定です。具体的な内容は今秋に発表します。

2、第2新館の建設について

第2新館は、現在の新館の東側に接続して建設されるもので、新館と第2新館とを一体化し、新しい時代に対応できる“開かれた、親しみやすい、学びと憩いのある博物館”づくりを目指したものであります。

第2新館は地上2階、地下1階の鉄骨鉄筋コンクリート造りで、規模や外観はおおむね現在の新館と同じです。新館と第2新館は各階とも通路でつながり、1階の接続部分が入館者の新しい入口となります。

第2新館の1階は、講堂と学芸課・仏教美術資料研究センター・管理課などの運営部門が入ります。そして現新館の1階にある講堂は撤去して、新しくハイビジョンギャラリーや各種の映画・ビデオなどによる視聴覚学習室、各種研修室とミュージアムショップ、軽食喫茶コーナーを設けます。

第2新館の2階は、展示室と文化財収蔵庫になります。

第2新館の地下は、文化財の搬入口、荷解場、収蔵庫と写真撮影室、X線等光学調査室、研究等調査室、文化財修理工室などが設置され、現新館の地下室も改裝されて、展示用資材倉庫などがつくられます。

以上のような第2新館の新設と現新館の改裝によって、奈良国立博物館は施設面で次のような改善が行われます。

- (1) 現新館の展示面積が、第2新館と合せて1,077m²から2,347m²と約1.6倍に拡大され、正倉院展の異常な混雑が解消されて、ゆっくりと鑑賞できるようになります。
- (2) 展示室が広くなることで、通常展示と企画展示を別に分けて行うことができ、企画展示準備のための休館をなくすことができます。
- (3) 文化財収蔵庫が現新館の792m²から1,390m²と約1.7倍となり、老朽化した施設も改善されます。
- (4) 光学調査室などが整備され、文化財に対する調査・研究機能が充実します。
- (5) 講堂が拡充し、現在の定員120名が200名となり、施設も改善されます。これによって、従来の講座などで御迷惑をかけた入場制限が緩和されます。
- (6) 専用のハイビジョン室など視聴覚コーナーができ、鮮明な画面で、文化財の映像を鑑賞できるようになります。
- (7) ミュージアム・ショップが充実し、展覧会のカタログ、あるいは美術史関係の学術書、入門書が入手しやすくなります。また楽しいミュージアム・グッズを販売します。
- (8) 軽食喫茶コーナーができ、素晴らしい美術品を鑑賞されたあと、しゃれたカフェテリアで美味しいコーヒーとケーキを楽しみながら、憩いの一時を過ごすことができるようになります。

以上のような施設の改善の中で、現新館1階の部分は無料入場コーナーとします。

工事は平成5年度から同9年度にかけての5ヶ年計画で、平成10年4月にはオープンする予定です。

なお、工事期間中、正倉院展、春季特別展を始めとして、博物館活動は従来通り行います。

また当館は、本館・新館の地下連絡通路など高齢者などの方々に御不自由をおかけしていることがありますが、その改善についても努力します。

3、奈良国立博物館が考えていること

いま奈良国立博物館は変わりつつあります。第2新館建設に伴う施設の改善は、これから奈良国立博物館がどのように活動してゆくかという問題と密接な関係があることは申しまでもありません。

国立博物館の活動の基本は我が国の文化財の保存とその公開を行うことで、そのために日頃社寺を始めとする文化財所有者の御協力を得ながら、文化財の調査・研究を行い、その成果を展覧会に、あるいは講座を通じて公表するように努力しています。

しかし、世間の人々からは、国立博物館は気楽に入りにくい。展示が判りにくい。展示品の名称・解説が難しくて、一般の人々には不親切だ。などの批判をうけていることも事実です。

このため、奈良国立博物館では“開かれた、親しみやすい博物館”をモットーとして、特別展の充実、特別陳列、特集展示など各種の企画展の増設に努めています。また若い世代の人達に少しでも博物館に親しんでもらうために「親と子の文化財教室」を毎月実施し、夏には「親と子のギャラリー」を開催していることも皆様ご存知のとおりです。博物館は展示を通じて、館の学芸研究員と入館者の方々との交流の場でもあります。毎月行っている展示室での「ギャラリートーク」はそうした考えに基づくもので、皆様の好評を得ています。正倉院展、春季特別展、あるいは夏季講座の機会に行われている学芸研究員を中心とした各種の講座も毎回多数の方々が熱心に参加して頂いています。

また、仏教美術資料研究センターについてもこれまで蒐集した文化財資料の整備を進め、利用しやすい環境づくりを心がけるようにしたいと考えています。

このように当館は“学びと憩いの場”としての博物館づくりに努力していますので、一層の御支援をお願いいたします。

講座 <親と子のギャラリー>

8月4日(木) 地獄絵—恐れと救い—

資料管理研究室長 中島 博

午後2時より、講堂で開催。午後1時30分開場、先着120名。聴講無料。

ギャラリートーク

7月13日(木) 仏舎利の莊厳 (新館北陳列室)

普及室長 関根 俊一

8月10日(木) 地獄絵 (新館南陳列室)

学芸課長 河原 由雄

9月14日(木) 増輪のはなし (本館4室)

主任研究官 前島 己基

午後2時より、陳列室で開催。入館者は自由に聴講できます。原則的に毎月第2水曜日に開催。

親と子の文化財教室

平成6年度 <奈良時代の歴史と美術—大仏造立のころ—> 主催・当館 後援・奈良県教育委員会

〈年間予定〉 7月9日「大仏造立」、8月6日「天平の美人—奈良時代

の絵画—」、9月10日「奈良時代の仏像」、10月8日「正倉院の宝物」、

11月12日「正倉院の校倉—宝物はどうして伝わったか—」、12月10日

「発掘された寺院の宝物—東大寺と国分寺—」、1月14日「お経を写す」

〈対象〉 小学5・6年生、中学生および保護者等。児童・生徒のみの参

加及び定員に余裕のある場合は高校生の参加も可。

〈定員〉 50名(先着順)。

〈時間〉 午前10時から12時。

〈場所〉 当館講堂・展示室ほか(現地見学もあります)。

〈参加料〉 無料(ただし見学料金等が必要な場合があります)。

〈申込方法〉 往復はがき(または電話)で、住所・氏名・学校名・学年・

電話番号・同伴する保護者等の氏名・実施日とを記入のうえ、

〒630 奈良市登大路町50 奈良国立博物館 親と子の文化財教室係

☎0742-22-7771 までお申し込み下さい。



ハイビジョンギャラリー(新館1階ロビー)

ハイビジョンによる臨場感あふれるクリアーナ映像と、わかりやすい解説で文化財の紹介をしています。現在、「奈良国立博物館の名品」を、彫刻・絵画・工芸・考古・書跡の各分野で製作を進めており、順次放映してゆく予定です。

八窓庵茶室の公開

〈公開日〉 新館開館中の毎週木曜日(ただし雨天の場合は公開しません)。

〈公開時間〉 午前10時より午後3時まで(入館者は自由に見学して頂けます。新館南側の扉よりお進み下さい)。なお、茶室の使用については、当館管理課までお問い合わせ下さい。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館)

観覧料金 (特別展料金で平常展も観覧できます。団体は責任者が引率する20名以上。)

特別展	大人	高・大生	小・中生
一般	790	450	250
団体	530	250	130

平特常展示	大人	高・大生	小・中生
一般	400	130	70
団体	200	70	40

毎月第2土曜日は、小・中学生無料(正倉院展・共催展等を除く)。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月の各1日に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレフォンサービス0742-22-3331 奈良国立博物館